

2025 オフィシャルズマニュアルの主な修正点について 0401

JBA 審判担当

1. 第2章 ターミノロジー

【追加】

・ケイデンスホイッスル

セカンダリのオフィシャルが明らかなイリーガルコンタクトに関して、プライマリの判定を待った後、遅れて笛を鳴らしコールすること。

・ペイシエントホイッスル

プライマリのオフィシャルがそのプレーとコンタクトに関して、「スタート・ディベロップ・フィニッシュ」の全体像を見て判定を下していくこと。

2. 6-1 (1) 審判のシグナル

【追記】

審判は、原則、規則で定められているシグナルを用いて判断を表現する。ただし、判定したものにに関して、その場面に応じて、よりわかりやすく表現することを目的とする場合、一般的に理解しやすいことが条件のもと、その表現に工夫をすることに限りはない。

例1) その判定や判断に注目が必要と客観的に判断できる場面で笛の音色や吹き方を工夫すること

例2) 足が引っかかってしまったことで転倒させてしまったイリーガルなコンタクトについて、足を引っかけるようなジェスチャーを行うこと

※いずれも、客観的にその表現がその場面に適している、そして関係者がどんな判定や判断だったかを理解することができることが条件となります。

3. 審判のシグナル（絵 51）、6-3 ファウルが起こったとき

【追加】

パス・オフ（ショットの動作中にファウルが起きたあと、ファウルをされたプレーヤーがパスをすること）



手のひらを開いて両手を横に動かす

ショットの動作中にファウルをコールされたプレーヤーが、笛が鳴ったあと、ショットをやめ、明らかにパスをしたと審判が判断した場合のジェスチャーです。

笛を鳴らしたあと、手のひらを開いた状態で、両手を使って、「パスをした」ということを表現することで、そのファウルはショットの動作中のファウルではないと判定したことを表現します。

※チームボーナスのシチュエーションであれば、ボーナスのフリースローは与えられます。

4. 6-4-1-2 「インスタントリプレーシステム (IRS) の使用条件」

【変更】

6-4-1-2 の(1)～(3)、競技規則から要約して記載のあった、IRS が使用できる条件に関する部分を削除。

【理由】

今後、IRS が使用できる条件に関して、FIBA から多くの変更が不定期で行われる可能性を踏まえ、IRS が使用できる条件に関してはその時点での競技規則と、FIBA から変更が出され国内で適用が始まる時期を参考にしてみようため。

5. 7-1(7) タイムアウトと交代

【変更】

そのタイムアウトが、そのチームの前後半あるいはオーバータイムに規則で認められている回数の最後のタイムアウトであったときは、審判は必ずしもそのタイムアウトが最後のタイムアウトであったことをヘッドコーチに伝える必要はない。

6. 10-3-1 ローテーションの原則 <フェーズ 2>

【追記】

「このローテーションの最中、イリーガルなコンタクトに関してリードはファウルを吹くことはあるが、動きながらの判定であることから慎重に判断を下すことが求められる」

【理由】

リードがローテーションをしている間は笛を鳴らしてはいけないということではなく、ペイント内や次にイリーガルなコンタクトがおこる可能性のあるマッチアップを見ながらレフェリングをすることから、実際にはファウルを判定し笛を鳴らすことはありえます。一方で、動きながらの判定であることから、その慎重性は求められます。

7. 10-10 ヘルプディフェンスに対するカバレッジ

【追記】

3 PO メカニクスでは、オフェンスのドライブなどに対し、待ち受ける形で守るヘルプディフェンスに対して、プライマリエアの考え方とアングルを活用し、適切な判定に結び付けるため、役割を分担しながら対応する。

10-10-1 ヘルプディフェンスに対するカバレッジの原則

- ・審判のメカニクスの上で、ストロングサイドとはリードとトレイルがいるサイドを示し、ウィークサイドとはセンターのいるサイドを示す。
- ・それぞれの審判は、誰が自身のプライマリのディフェンスなのか、誰が自身のセカンダリのディフェンス（ヘルプディフェンス）なのかを把握する。
- ・ヘルプディフェンスレベル（フリースローレーンの一番上のハッシュマークを結んだ線とサイドラインまでの延長線）よりも下に位置するセカンダリディフェンスを、原則、ヘルプディフェンスと考える。
- ・ヘルプディフェンスをオフェンスの間にコンタクトが起きた際、誰がそのヘルプディフェンスを一番長く見ていたか、をポイントとする。

- ・ストロングサイドヘルプディフェンスとは、リードとトレイルのいるサイドに位置する、またはそこからヘルプディフェンスとしてオフenseを守るセカンダリディフェンスを示す。ウィークサイドヘルプディフェンスとは、センターのいるサイドに位置する、またはそこからヘルプディフェンスとしてオフenseを守るセカンダリディフェンスを示す。ストロングサイドヘルプディフェンスとオフenseの間でコンタクトが起きた際、原則、プライマリはリード、セカンダリはセンターとなる。ウィークサイドヘルプディフェンスとオフenseの間でコンタクトが起きた際、原則、プライマリはセンター、セカンダリはリードとなる。
- ・トランジションの間はヘルプディフェンスの定義はなく、原則、リードをプライマリとする。